

## 参考資料 1 最大個体数による経年変化の把握

本編では、平均個体数を用いた経年変化の把握を検討した。

この資料では、2010年9月14日の鳥類作業部会において提案をいただいた、最大個体数による経年変化の把握についてとりまとめを行った結果を示した。

### 1.1 対象種・対象地点

対象種は、三番瀬周辺で減少傾向にあると考えられたシロチドリ、三番瀬周辺に多く確認される種であるスズガモ、ハマシギの3種を対象とした。

対象とする地点は、平均個体数の評価と同様に、三番瀬、谷津干潟、行徳鳥獣保護区とした。ただし、三番瀬については、地点によって調査日が異なることから、船橋海浜公園について整理した。

### 1.2 時期の区分

鳥類の経年変化の傾向を把握するために、鳥類の生態に合わせ、春の渡り期（4・5月）、繁殖期（6・7月）、秋の渡り期（8・9月）、越冬期（12・1・2月）に区分した。

### 1.3 整理結果

#### (1) シロチドリ

シロチドリの最大個体数の経年変化を図 1 に示す。

シロチドリは三番瀬周辺を通年利用しており、3 地点とも最大個体数が最も多かったのは秋の渡り期であった。

船橋海浜公園では、経年的に確認されているが、2007 年調査では、春の渡り期、秋の渡り期の最大個体数はこれまでで最も少なかった。

谷津干潟は、1980 年代には 3 地点のうち、最も多く確認されていたが、2000 年代には特に秋の最大個体数が減少している。2007 年度調査では、春の渡り期、繁殖期、秋の渡り期で確認されていない。

行徳鳥獣保護区では、他の 2 地点と比較してもともと個体数の少ない地点である。2007 年調査では、1 年を通じて確認されていない。

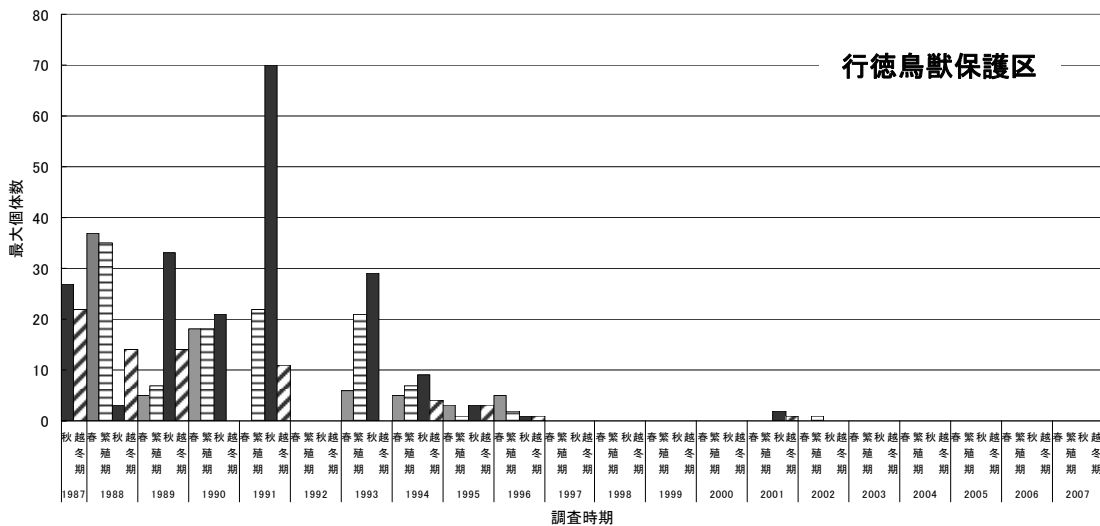
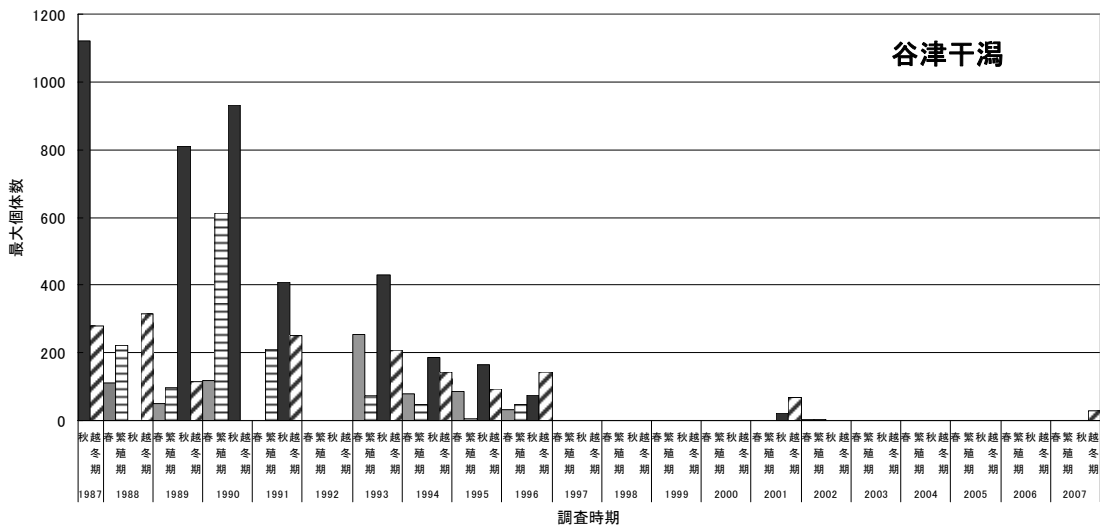
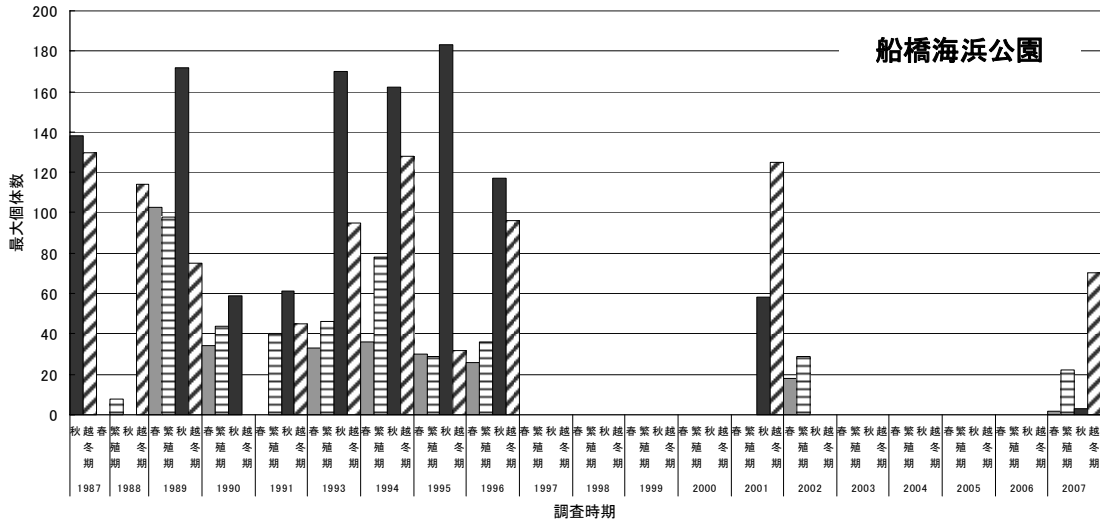


図 1 シロチドリの最大個体数の経年変化

## (2)スズガモ

スズガモの最大個体数の経年変化を図 2 に示す。

スズガモは三番瀬周辺を主に越冬期に利用しており、3 地点とも最大個体数が最も多かったのは越冬期であった。

船橋海浜公園では、最大個体数が最も多かったのは、1996 年の越冬期で約 58,000 羽が確認された。

谷津干潟では、もともと確認個体数が少ないが、2007 年の越冬期に最大で 31 羽が確認された。

行徳鳥獣保護区では、1987 年の越冬期には、約 50,000 羽が確認されたが、それ以降は最大個体数は減少しており、1996 年以降は確認されていない。

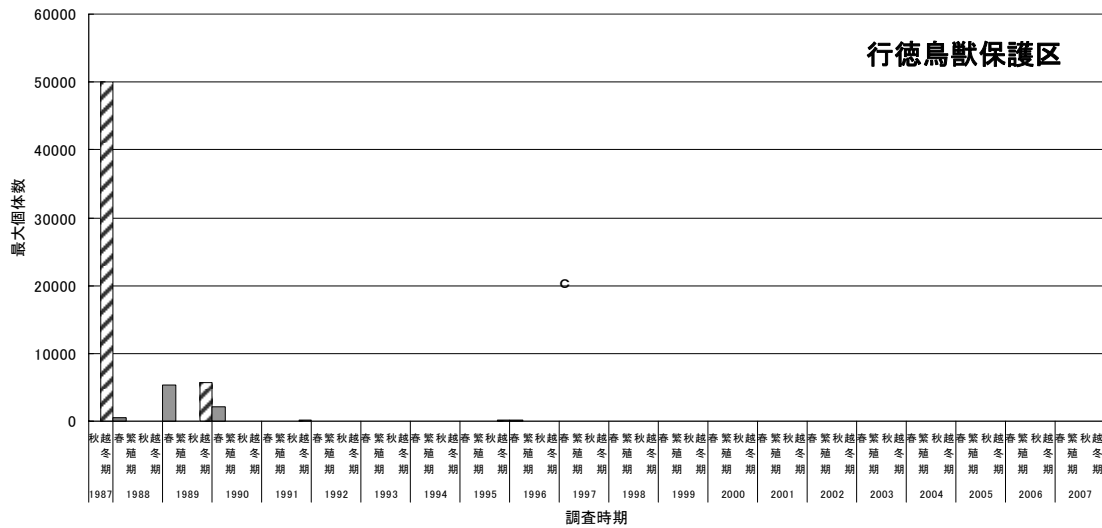
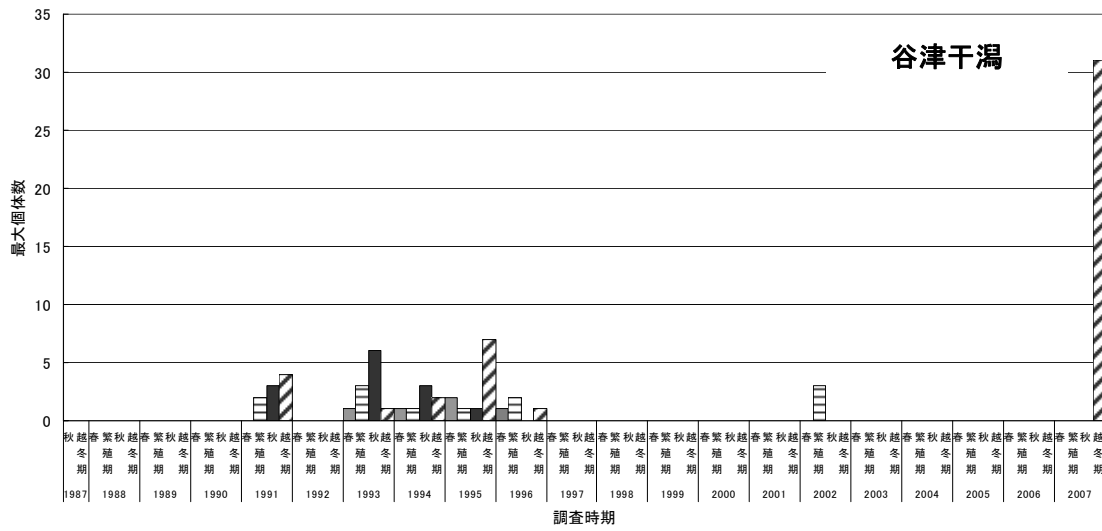
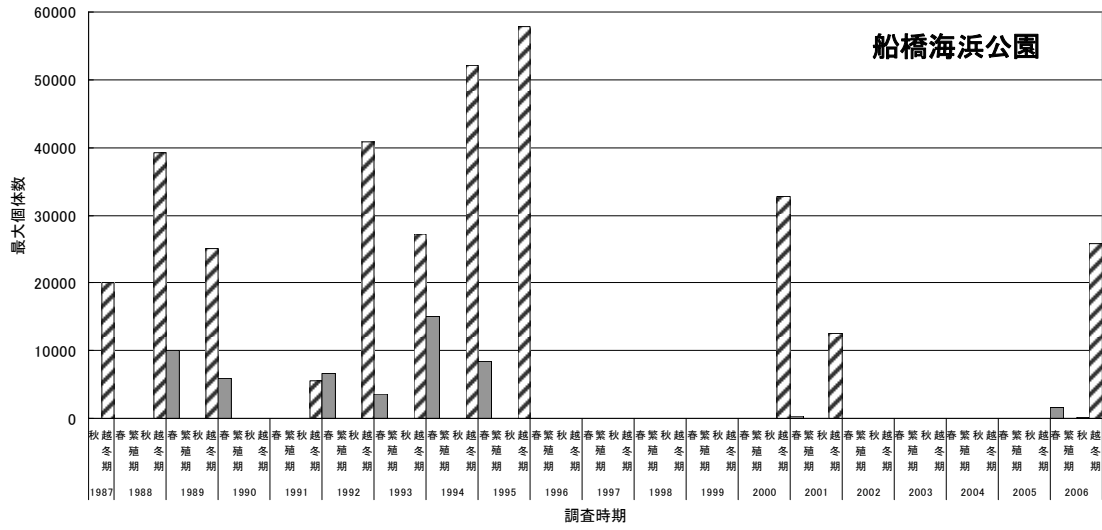


図 2 スズガモの最大個体数の経年変化

### (3)ハマシギ

ハマシギの最大個体数の経年変化を図 3 に示す。

ハマシギは三番瀬周辺を主に春の渡り期と越冬期に利用している。

船橋海浜公園では、最大個体数が最も多かったのは、1994 年の越冬期で 4,300 羽が確認された。

谷津干潟では、最大個体数が最も多かったのは、1996 年の越冬期で 4,100 羽が確認された。

行徳鳥獣保護区では、他の 2 地点と比較して最大個体数は少ない。また、最大個体数は春の渡り期、越冬期ともに調査開始時が最も多く、近年は確認されていない。

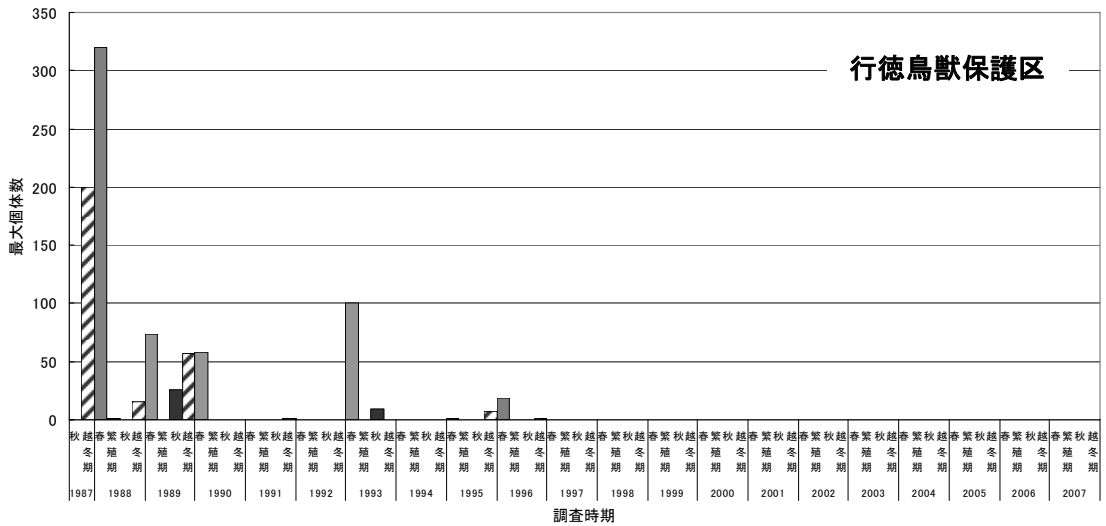
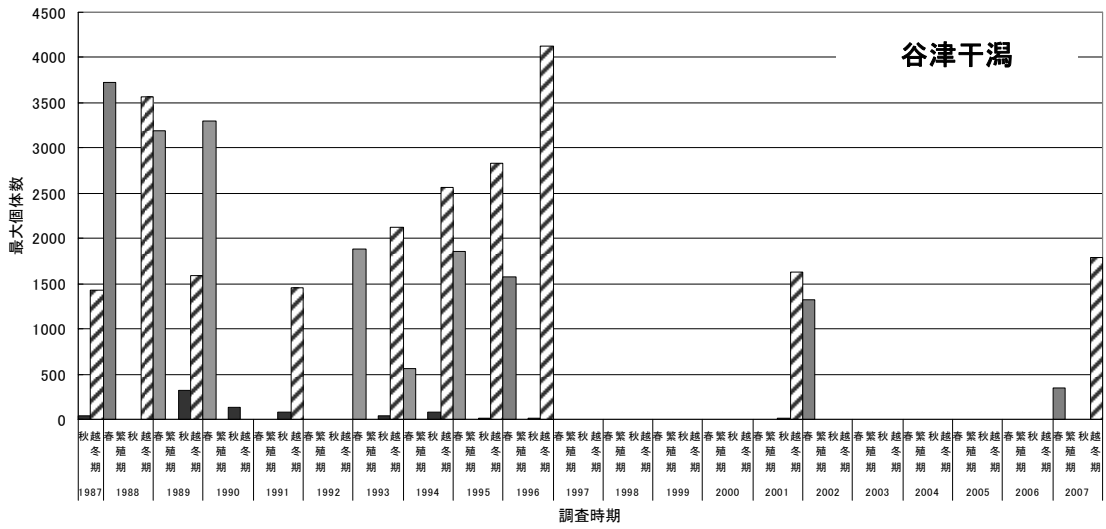
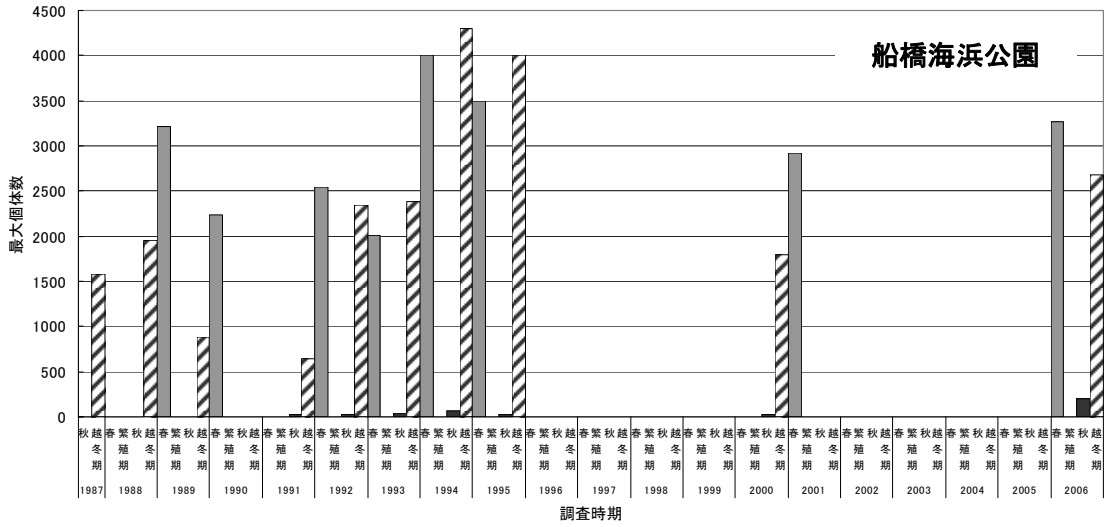


図 3 ハマシギの最大個体数の経年変化